

今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇塩ビリサイクル支援制度に採択決定

ー広域認定制度を利用した塩ビ壁紙のリサイクル小口回収システムの開発
及び実証試験ー

■ [随想](#)

◇フィレンツェ便り（その4）ーイタリアのクリスマスー

関東学院大学 織 朱實

■ [編集後記](#)■ [トピックス](#)

◇塩ビリサイクル支援制度に採択決定

ー広域認定制度を利用した塩ビ壁紙のリサイクル小口回収システムの開発
及び実証試験ー

VECでは塩ビのリサイクル促進を目的に2007年に「塩ビリサイクル支援制度」を創設し、新しいリサイクル技術等の開発を支援してきました。

この度、昨年9月に応募のあった一般社団法人日本壁装協会の「広域認定制度を利用した塩ビ壁紙のリサイクル小口回収システムの開発及び実証試験」の協賛・支援が決定しました。

テーマの内容は、廃棄物処理法の広域認定制度を利用し、壁紙施工時に発生する塩ビ壁紙廃棄物（施工端材及び剥がし材）を回収し、リサイクルを拡大しようとするものです。支援制度として8件目になります。

塩ビ壁紙は、壁紙出荷量のほぼ90%以上を占め、それらの廃棄物のリサイクルは製造時の規格外品や大規模工事現場等を除き、あまり進んでいないのが現状です。これは小規模現場からの小口排出が多いことと、塩ビ壁紙は紙と塩ビの複合材であるため、単一素材の製品と比べそのリサイクルが難しかったことによります。この中で複合材による問題は、先に本支援制度の下で開発された[叩解法](#)により技術的解決の可能性が拓けております。

本テーマは、技術開発ではなく、前述の小口排出の問題に焦点をあて、排出された廃塩ビ壁紙を効率的に回収・リサイクルできるシステムを構築しようとするものです。支援制度においてシステム開発を対象としたテーマとしては、初の案件です。前述の広域認定制度の認可を取得することにより、業界での収集・運搬等を可能とするとともに、回収システム運営をIT化することにより効率化・低コスト化を図る予定となっております。回収された塩ビ壁紙は粉碎され、用途により塩ビと紙を分離または分離せずに再利用されます。当初は関東圏での回収から始め、将来的には全国規模での回収を目指しています。

[一般社団法人日本壁装協会](#)は、壁紙の製造・流通・施工の3業態から構成される団体です。壁紙に関連した業界間の協力により、困難な廃塩ビ壁紙の小口回収が大きく進展し、塩ビのリサイクルの拡大に繋がることを期待しています。

参考資料：[塩ビリサイクル支援申請に関する概要のご説明（一般社団法人日本壁装協会）](#)

■ 随想

◇フィレンツェ便り（その4）ーイタリアのクリスマスー

関東学院大学 織 朱實

少し時間がたってしまいましたが、新年あけましておめでとうございます！
今年もよろしくお願いいたします。

日本では、お正月がビックイベントですが欧州ではクリスマスがビックイベント。とはいえ、完全に家族行事で、フィレンツェのクリスマスのイルミネーションも想像していたより、派手なものでありませんでした（たぶん、今ではクリスマスのイルミネーションの華やかさにかけては、日本が世界でもトップクラスなのでは？）。

12月に入ると、ドゥーモの前に大きなツリー（飾りつけられているのは赤いフィレンツェの紋章。街のイルミネーションも同じです）と、キリストの生誕の様子を模したプレセーピオ（聖家族の人形）が飾られます。イタリアでは、飼葉おけの中のキリストは12月25日まで入れられることがなく、24日の深夜ミサが終わるころ外に出てみると、幼子キリストが飼葉おけにしっかり入っています。クリスマス当日もイブの夜も、街は人気がなく（日本の昔のお正月みたいな感じですね）。12月24、25日は、美術館等の公共施設、お店もお休み（とはいえ、アラブ系のお店は空いているので、食べ物とかそれほど困ることはありません）。クリスマスを期待してきたらろう観光客が、所在なさに、街をうろついているだけです。



ドゥーモの前のツリーとプレセーピオ

一方、新年は12月31日の夜、人々が教会や広場の前に三々五々集まり、時報、教会の鐘の音と同時にスプマンテ（発泡酒）の栓が抜かれ、爆竹の音が響き渡り、花火も上げられるというかなり騒がしい、というか危い感じです（広場の真ん中が空いていて、人々はその周りぐるっと囲んでいるので、「なぜ真ん中が空いているのかしら？」と思っていたのですが、年が明けた瞬間に、中心にむけて爆竹が投げ込まれるわ、スプマンテの瓶は飛んでくるわ、若者は酔っぱらって大騒ぎするわ、危ない！危ない！真ん中が空いている理由がわかりました）。



そんな感じで、大騒ぎして新年を迎えますが、イタリアでは、クリスマスの飾りは1月6日のエピファニアのお祭りまで片づけられません。なので、クリスマスが終わっても、街の中はキラキラしています。そして、1月6日、この日魔女が子供たちにお菓子を配り、クリスマスのお祭りも終わり、ツリーが片づけられ、イルミネーションもおしまいです。



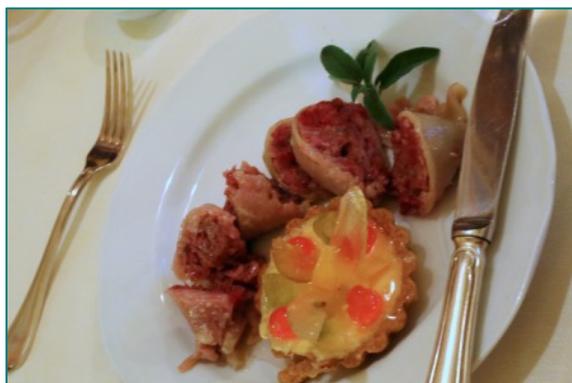
人間プレセーピオ

フィレンツェでも、1月6日にはいくつもイベントがあります。まず、ドゥーモの前のプレセーピオは人間プレセーピオになります。マリア様、ヨセフ様はもちろん、子供たちも羊飼いに扮し、本物の子羊を見物人に触らせてくれたり、果物を配ってくれたりします。

クリスマスソングの合唱が行われ、そしてイタリア恒例！中世の衣装に身を扮した各町代表が旗をたなびかせ、ドゥーモの前に集合（ピッティ宮からヴェッキオ橋、シニョリーア広場を通り、最後にドゥーモです）。各町代表に続き、東方の三博士が幼子キリストにお祝いを届け、イベントは終了。大量の風船が、ドゥーモの前で飛ばされます。長い、長いクリスマスイベントが終わり、これからはみなさんお待ちかねのセールのシーズンに突入です。



さて、クリスマスのもう一つのお楽しみはクリスマスのご馳走。フィレンツェでは豚足に詰め物をして、甘いタルトと一緒に食べるもの、これにパネトーネという洋酒漬けのフルーツを使った大きなドーム型のパウンドケーキでしょうか。英国では、鹿肉で、ドイツでは鶯鳥、ということで日本で思い浮かぶクリスマスのご馳走、ターキーは米国を中心としたもので必ずしも世界共通というわけではないのですね。



イタリアのクリスマス、駐在経験者から『お店どこも閉まっているよ。食べ物買っておいの方がいいよ』と散々聞かされていたのですが、実は思っていたよりもお店が空いていて（アラブ系、中国系）、完全に閉まっていたのは25日だけで、26日は生活には全く不便がないくらいでした。日本のお正月も開いているお店が増えてきましたが、世界的な傾向かもしれませんね。

今回は、初めてイタリアで盗まれる？体験ロストバツパッケージ顛末記です。

⇒ [メルマガ・バックナンバー](#)

■ 編集後記

昨年後半から地下鉄の駅でエスカレーターを登るとき、「エスカレーターでは歩かず、片側を空けず、手すりにつかまる」ようにとアナウンスをよく聞くようになりました。

エスカレーターの「片側空け」は英国が起源といわれ、世界でも広く受け入れている習慣だそうです。エスカレーター自体は立ち止まって乗ることを前提に設計されているとのこと。思わぬ転倒事故等トラブルに巻き込まれないためにも、出来るだけ歩くのは控えたほうが良いかもしれません。（鷹山）

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp